

ブドウ「巨峰」の無核栽培における強樹勢樹の着粒安定技術

「巨峰」の無核栽培において、強樹勢で結実が不安定な樹に、展葉8～10枚時にフラスター液剤500倍を散布して新梢伸長を抑制し、従来の方**法**でジベレリン花房浸漬処理することで、慣行の無核処理よりも花振るいが少なく、着粒が安定する。

農業研究センター 果樹研究所 落葉果樹研究室 (担当者: 中満 一晴)

研究のねらい

ブドウの無核栽培は、有核栽培よりも結実が安定することから本県でも関心が高まっている。しかし、若木時や有効土層が深く肥沃な土壌条件では強樹勢となり、慣行の無核栽培では花振るいがひどく、品質不良となりやすい。

そこで、フラスター液剤(メピコートクロリド液剤)散布による強樹勢樹の品質向上技術を確立する。

研究の成果

1. 強樹勢樹では、展葉8～10枚時にフラスター液剤を散布し、従来のジベレリン果房浸漬処理(満開期: GA25ppm + フルメット5ppm 満開10日後: GA25ppm)を行うと結実率は非常に高くなる。慣行処理(満開期: GA25ppm + フルメット5ppm 満開10日後: GA25ppm)及び、ジベレリン単用処理(満開期: GA25ppm 満開10日後: GA25ppm)では花振るいがひどく結実率は低くなる(図1、写真1)。
2. フラスター散布により着粒が確保されることで収穫時の房形がきれいに仕上がる。慣行処理では着粒が足りず、外観が見劣りする(表1、写真2)。
3. 1房当たりの摘粒に要する時間は、フラスター散布を行うことで着粒が増加することにより、慣行処理の2倍弱を要する(図2)。

結実が不安定な強樹勢樹においては従来のジベレリン浸漬処理に加え、展葉8～10枚時のフラスター液剤500倍散布処理が結実安定に有効である。ただし着粒が多くなるため、摘粒作業を速やかに行わないと果粒肥大が鈍る恐れがある。

普及上の留意点

1. 着粒が多くなるため、摘粒が遅れると果粒肥大が鈍る。また、果粒が密着するため、作業効率が低下する。そのため、結実が判定でき次第、早めに粗摘粒を行う。
2. 樹勢が落ち着くと、ジベレリン25ppmの2回処理(フルメット5ppmを1回目または2回目に混用)だけで結実は安定するため、フラスター液剤の散布は必要でなくなる。

[具体的データ]

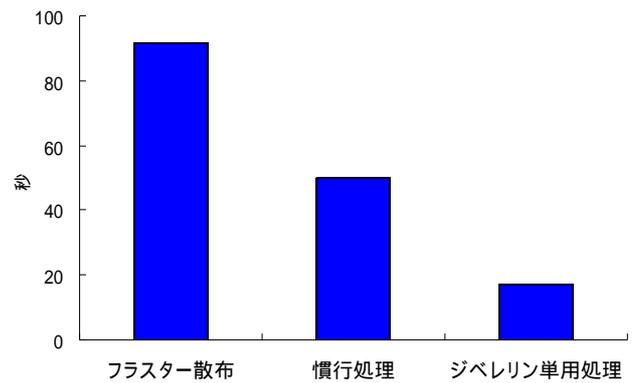
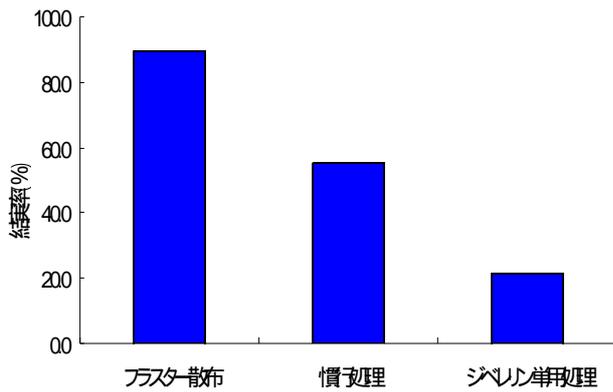


図1 「巨峰」におけるフラスター処理による結実率への影響

図2 「巨峰」におけるフラスター処理による1房当たりの摘粒時間への影響

注) フラスター散布後に慣行の無核化処理を行った
(満開時: GA25ppm+FUL5ppm、満開10日後: GA25ppm)

表1 「巨峰」におけるフラスター処理による果実品質への影響

試験区	1房重 (g)	1房粒数 (個)	1粒重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)	着色 ^{a)}	房形 ^{b)}
フラスター散布	355.8	29.9	11.6	17.3	0.69	6.5	4.4
慣行処理	270.5	27.6	9.5	17.5	0.65	7.8	2.2
ジベレリン単用処理	203.3	17.3	11.3	18.4	0.70	7.1	1.2

a) カラーチャート値

b) 5段階評価(良5~不良1)



写真1 「巨峰」におけるフラスター散布の有無と結実の関係



写真2 収穫果実(左からフラスター散布区、慣行処理区、ジベレリン単用処理区)

